あんのんえんこう
宰相山　角屋
圓光寺だより

〒五四三-〇〇一三　大阪府大阪市天王寺区玉造本町一三-五
電話番号、ＦＡＸ　〇六-六七六一-八二九三

令和３年　３，４月号　No.
寺報　あんのんえんこう
発行　圓光寺ごほう志会
執筆者　足利誠正

人々の不安に寄り添うお寺づくり

当院では境内地に立っていた土蔵が風雪に耐え、地震にも耐えてきましたが危険もあるので解体撤去せねばならなくなりました。数々の文化財等々を守ってくれました。私たち寺族でお礼のお勤めを行い、いそぎしかるべき業者さんにお願いして４月５日から一週間に計画どうり取り壊しました。

これらの船場の土蔵に守られていた文化財を引き続き守り通してくれたことへ心からお礼を申すことでございます。来院される機会があった方とは記念撮影をしました。今では更地となった境内を皆様と相談しつつ利用活用の仕方を考えたいと思っております。

これには基本的な願いや、あるべき姿を具体化する話し合いを行い、決議して積み上げていく考えを持っています。そしてまた、令和３年度に２８点の文化財の指定を受けています。平成１２年度指定の１８点と合わせて４６点もの大阪市指定文化財が歴代にわたって安全に保管管理され引き継がれていくように立案できますよう念じるばかりです。文化財は大阪歴史博物館で展示予定です。詳細が分かり次第お伝えします。

コロナ騒動で世の中が一変した今お寺のゆくえも多難です。ご本尊に身近に合掌礼拝ができ盗難にあわない防備をしたうえで境内に自由に入れて活動活用できる場として、近隣檀信徒の方に使用され、その中でみ教えを伝える施設として圓光寺を蘇らせたいと考えています。

圓光寺は堺、大阪市内と移転しそれぞれの土地でやってきました。戦後本堂が焼け、区画整理で玉造へ。今のマンションは立ち退き保証金で仮本堂として建てました。先代と私住職は玉造に移転してから私個人と宗教法人の収入から仏具、巻物の補修、納骨堂等の整備を行ってきました。宗教法人として公の組織として運営するということをおろそかにして、私個人の判断で経営していることにいたっていると反省しています。新型コロナによる生活習慣の変化、失業者が増加している中で助け合い困っていることが相談でき解決へと進んでいける場としてのお寺づくりが大切だと思います。時代に合わせたお寺に変わることを迫られています。

そして終の棲家方策として、家族葬からお納骨まで当院が責任を持って執り行える圓光寺にする。という段取りを考慮中です。主として土蔵解体に至った経緯、お掛け軸（巻物）の耐火保管、家族葬への取り組み等々を柱として述べました。これらを次に７項目の具体策として取り組む考えです。

１戦後、船場中央から玉造に移転し、土蔵に保管していましたが、屋根、壁の痛みが激しく昨今の異常気象もあり解体しました。指定文化財、宝物の保管管理の仕方を検討中です。

２土蔵解体後の境内地の活用の仕方。

３葬儀業界は法整備が遅れており玉石混交です。圓光寺で安心して少人数、家族葬を行えるよう検討中です。１階会館で文化財名号を掲げ心を込めて執り行います。

４対面が前提の法要から圓光寺文化財を掲げたオンライン法要の試み（動画配信、写真と院号法名書を郵送）本堂でお勤めします。至

らないところあるかもしれませんが、誠心誠意行います。

5今の2階仮本堂を本堂として入り口をお寺らしく、1階納骨堂会館をそのまま家族葬もできるように整備。（今の建物で維持費がかからないよう活用）

6従来の取り組みの積極的廃止に伴う事業計画の全体見直し。
寺報はホームページからPDFダウンロードで見ることができます。

7写経会で順番に宝物展示

以上のような宗教法人としての話し合いやご協力について力を貸してくださるようによろしくお願いします。

聖徳太子蓮座像

観音菩薩

3，4月伝道板より

蠟梅の
お慈悲の香りに
さそわれて
寺庭につどう
ひよどりめじろ

寺庭とはお寺の境内のこと。今頃になっても花や実を結んだ梅。ここでは蠟梅。青空のもと鳥たちがやってくる。そして楽しくやってます。よく見ると渡り鳥も。

定例写経の集い
令和3年4月24日（土）

お勤め　　14時から15時
一言法話（住職）
写経会　　15時から16時
奉納式
お茶接待　　16時半まで

マスク着用でお願いします。

あとがき
コロナの収束を願いつつ、自ら生活をただし生活していきましょう。しなやか心と振る舞いを心がけましょう。